



巻頭エッセイ	1
シリーズ「福祉にみる“いのち” ^③ 」	2
コラム「人間を考える」 ^④	3
2021年度講座案内	4

同朋大学 “いのちの教育” センター
〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1
TEL 052-411-1373
Eメール宛先 inochi@doho.ac.jp

● 同朋大学 “いのちの教育” センターだより

同朋学園創立100周年を機縁に、本センターのありかたをあらためて考えます。今年度、本学に新任の山脇雅夫先生、川乗賀也先生からさっそく本センターの願いに呼応するご執筆を頂戴しました。連続講座（全5回を予定）もご案内申し上げます。新型コロナウイルス問題が収束しない中、そうであるからこそ大切な “いのちの教育” をともに学びましょう。

2021.7.1 No.54

同朋学園創立100周年に考えること

— 本センターのありかた —

安藤 弥

2021(令和3)年6月13日、同朋学園は1921(大正10)年の「真宗専門学校」創立から数えて100周年を迎えました。1826(文政9)年の名古屋東御坊内「閔蔵長屋」設立からは195年目、1950(昭和25)年「東海同朋大学」開学からは71年目に当たります。

100年前の学園創立の経緯とその願いについて、「学祖」である住田智見とその「同朋」（ともに仏の教えを聞く仲間）たちの歴史から、あらためて確かめてみます（本文内敬称略）。

住田は1868(明治元)年、祐誓寺(現名古屋市中熱田区)に生まれました。尾張教校を卒業後、京都の真宗大学寮に進学(細川千巖に師事し、香月院深励の宗学を継承)、その後、真宗大学・真宗大谷大学の教授となりますが、1920(大正9)年に辞職します。その理由は真宗大谷大学が「真宗」の二字を取り、大谷大学になるという「学」の方向性に根本的な問題を感じたからでした。

名古屋に帰った住田でしたが、彼を中心に真宗を専門とする学校を設立したいと一柳知成ら

多くの「同朋」が集います。そして創立されたのが「真宗専門学校」でした。

住田は一切の役職を受けず一教授としてあり、初代校長は一柳が務めました。住田とともに真宗大谷大学を辞した小島恵見や、稲葉圓成、山上正尊らも教壇に立ち、彼らは後に(東海)同朋大学の歴代学長に就き、学祖住田を礎とする学風を継承、展開していきます。その学風とは、まさに親鸞の眼から見た真宗仏教であり、そして、ご門徒さんたちとともに聞法の場を開いていくことを大切にする教化学の姿勢でした。

住田は1938(昭和13)年7月1日、71歳で命終(成徳院智見)。住田の学風、学園創立の願い、建学の精神はその後の歴史の中で、折々に確かめる場が開かれてきました。本センターも1994(平成6)年、阿弥陀仏の「無量寿」(いのち)の願いを有縁の方とともに学ぶ場としてスタートしました。建学の精神「同朋和敬」と呼応する “いのちの教育” の課題をこれからも考え続けていきたいと思えます。

(本学文学部教授 センター主幹)

普遍的な価値のある「いのち」を守る

川乗 賀也

日本は世界でも自殺率の高い国として精神保健の分野では知られている。平成10年から平成23年まで年間の自殺者数が3万人を超え続けたが、それ以来減少傾向が続き令和元年には2万人を切り一番多い年から比較すると実に約1万5千人減少させることができた。

このような情勢の中、COVID19の影響により令和2年は残念ながら増加してしまっただが、これまでとは少し自殺者の状況が変化したように思える。それはこれまででは中高年の男性に既遂者が多いという特徴がみられたが、今回は若年層における自殺が増加している。

なぜ若年層の自殺が減らないのであろうか。現在、実施されている自殺予防対策から考えてみる。まず、自殺予防の基本は、相談機関へ事前に相談してもらうことが重要である。TVのCMでうつに関する啓発をしたり、行政スタッフが企業や学校へ相談の重要性、相談できる機関についての周知に出向いたりしており、現場で

は積極的な動きが見られる。次に、若者の特性を考えてみる。現代の若者はSNSによるコミュニケーションに慣れており、一方で対面や電話によるコミュニケーションを苦手とする傾向にあると言われる。ここに対面で相談をしようとする支援側と対面を苦手とする要支援者のギャップがあると思われる。最近になってようやくSNSによる相談が一部できるようになってきた。厚生労働省としても若者への自殺対策の1つとしてSNSを活用した相談事業者への補助を開始しており、2019年4月～2020年3月分のSNS相談事業の実施結果をホームページ上で公開している。同様にSNSによる相談支援を自治体単位でも展開され始めているが、非常に少ないのが現状である。

同じ時代を生きる普遍的価値のある「いのち」を守るため支援者側も時代とともに進化をしていく必要があるのではないだろうか。

(社会福祉学部 准教授)

墓と人間性

山脇 雅夫

夏の日に墓参りをすると、ときどき、墓石に水をかけながら「暑かったねえ」と話しかけている人を見かける。墓石に水をかけると亡くなった方が涼しい良い気持ちになる、そんな感覚なのだろう。そう推測するのは、私自身も、父の墓石を磨くとき父の背を流しているような気持ちになるからだ。私にとって墓掃除は、父の生前、背を流すこともしなかったという負い目の混じった、亡父との無言の語らいである。

こうしたことから考えるのは、私たちは墓を亡き人のある種の「身体」として感じているのではないか、ということだ。お墓はある種の「^よ依り代^{しろ}」であり、そこに私たちは亡き人の存在を感じているように思われる。

もちろん墓石は亡き人の身体ではない。それは無機的な物体である。しかし、そういった考え方からすれば亡くなった方のご遺体もまた、すでに亡き人ではないとも言える。極端な話、遺体はただのタンパク質の塊である。プラトンの『パイドン』に、自分の埋葬の仕方について聞かれたソクラ

テスが自分の死体はもう自分ではない、と答えるところがあるが、これなどはそうした考え方の嚆矢だろう。合理的な考え方である。

しかし私たちの中には、遺体をただのタンパク質の塊として見ることを許さないものがある。遺体がホントにただの肉塊なら、それを生ゴミの日に出してもいいわけである。しかしこれに問題を感じない人はないだろう。「ねえ、お父さん^だった肉の塊、どうする？ 次の生ゴミの日までもつかなあ？」などという会話が普通になってしまったら、人間は人間ではなくなってしまう。

江戸時代の寺子屋の訓戒集に「人の人たる人、人を人とす」というものがあったそう。人間を人間として扱う者こそ人間であるという人間性の本質を言い表した言葉だと思う。死者のご遺体に、あるいはお墓に、「その人」を感じるのは、そうした人間性の構造に根ざしたことだと思われる。単なる迷信では決していない。

(文学部人文学科教授)

同朋大学「いのちの教育」センター講座一覧

連続いのちの講座 **テーマ** “いのち”の教育

会場 Do プラザ 関蔵
無料

9/28(火) 16:20～17:50

真宗の「いのち」観 — 修道と選別 —

講師 鶴見 晃 (本学 文学部 教授)

10/19(火) 16:20～17:50

子どもの福祉といのち

講師 井上 薫 (本学 社会福祉学部 教授)

11/16(火) 16:20～17:50

生老病死を肯定する介護福祉の実践 — 社会福祉法人貴和会の取組み —

講師 下山久之 (本学 社会福祉学部 教授・社会福祉法人貴和会顧問)

12/7(火) 16:20～17:50

医療現場における「いのち」に関わる差別を考える

講師 林 祐介 (本学 社会福祉学部 准教授)

1/11(火) 16:20～17:50

コロナの時代を生きる — 「親鸞と現代」の授業を通して —

講師 森村森鳳 (本学 文学部 教授)

開催の有無、実施形態についての最新情報は「大学HP公開講座欄 (<https://www.doho.ac.jp/>)
でご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

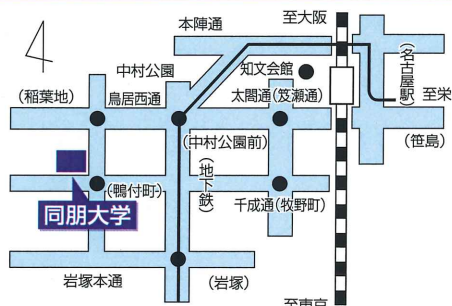
所 員

- センター主幹：安藤 弥 (文学部 教授)
所 員：森村森鳳(張偉) (文学部 教授)
所 員：北島 信子 (社会福祉学部 教授)
所 員：岩瀬真寿美 (社会福祉学部 准教授)
所 員：市野 智行 (文学部 専任講師)

お問い合わせ先

同朋大学 “いのちの教育” センター
〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1
☎ 052-411-1373

同朋大学 周辺地図



交通 市バス／栄又は笹島より②系統稲西車庫行、鴨付町下車
地下鉄／中村公園より⑩系統稲西車庫行、鴨付町下車